

決意表明

未来に責任ある政治のために

銀行勤務ではアジアでの事業融資を担当し、経済成長のダイナミズムを体感しました。その一方で日本はバブル崩壊以降、失われた20年と少子高齢化による衰退の一途です。アジアの成長もよいが、日本を再生することこそ自分の果たすべきミッションだと思い定め、故郷の兵庫に戻って政治活動を開始しました。

そして、まず政治・行政の最前線である

基礎自治体において、行政のサービス向上と業務効率化に努める一方で、地方議会改革に邁進しました。しかし、地方議会ではどうしてもない国による巨額の税金の無駄遣いを目の当たりにして、我が国の未来のために、この国の政治を根本から叩き直さなければならないとの想いに至り、国政にチャレンジする決意を固めました。

政治にこそ、競争原理を!

20年前の日本では「政治三流、経済一流」と言われていましたが、失われた20年をみれば政治が三流だから経済も三流になってしまったと言わざるをえません。

また「権力は腐敗する、絶対的な権力は徹底的に腐敗する」と言われるように、一党支配では政治が腐り

人々を不幸にすることは近隣諸国をみれば明らかです。一人一人を大切にすることを発展させるため、そして政治のレベルアップのためには二大政党による切磋琢磨が必要であり、だからこそ自民党に対峙する政治勢力を結集すべきです。

2009年の政権交代時には、私は議員ではありませんでしたが、一人の国民として民主党に期待しました。しかし、裏切られました。ならば、二大政党の一方を再構築するためには自らが立ち上がるしかない、との想いから決意しました。



桜井 周 (さくらい しゅう)

銀行勤務ではアジアでの事業融資を担当し成長のダイナミズムを体感するも、日本再生のため、故郷の兵庫に戻って政治活動を開始。

連絡先 📍 伊丹市鈴原町9-138 📧 sakuraishu.office@gmail.com

桜井シュウのことをもっとよく知りたいと思われた方は、こちらをご覧ください。

公式website ● <http://www.sakuraishu.net/>
日刊! 桜井シュウ ● ameblo.jp/sakuraishu/ → 毎日更新
月刊! 桜井シュウ ● <http://www.sakuraishu.net/>

討議資料



民進党

桜井 周 (さくらい しゅう) プロフィール

【学歴】美鈴月影幼稚園、鈴原小、南中、県立伊丹高卒、京都大卒、京都大院修士、ブラウン大院修士

【職歴】国際協力銀行調査役などを経て伊丹市議会議員(2期)、民進党兵庫県第6区総支部長

【資格】TOEIC: 925、弁理士、国会議員政策秘書試験合格

桜井シュウ

未来に責任

vol. 01 教育は国家百年の計

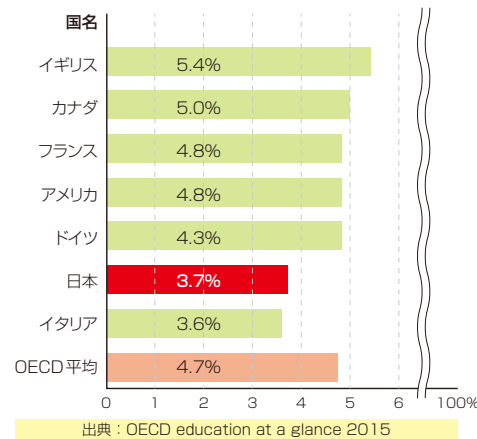
アクセスはこちら



教育は国家百年の計

明治以来、教育は国家百年の計と言われてきました。教育に関してイギリスのブレア元首相の3つの重要政策をあげると、それは教育と教育と教育だ! (Ask me my three main priorities for government and I tell you: education, education and education.) という有名な演説の通り、教育は重要です。なぜなら、社会は人の集まりであり、人を育てることこそがよりよい社会をつくるために最も効果的な方法だからです。よって、私は、地方議員として教育を最重

【表1】教育への公的支出の国内総生産(GDP)に対する割合



また、大学生に対して給付型奨学金(返済不要)がないのは先進国の中で日本とアイスランドだけです。アイスランドは大学の授業料が無料です。せめて他の先進国並みに日本でも給付型奨学金を導入すべきです。

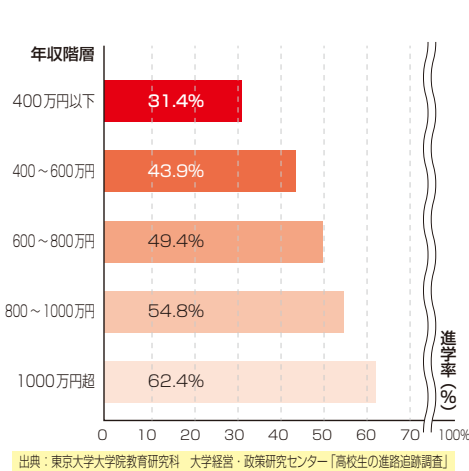
このように、親世代の経済格差が子ども世代の教育格差につながっています。将来に希望を持つことができない

要課題として取り組んできました。

しかし、日本全体で見たとき、我が国の公的教育投資は他の先進国と比較して最低水準です。例えば、教育への公的支出の国内総生産(GDP)に対する割合は先進各国で最低水準です。(表1)

結局、我が国では、公的支出の不足を家計が負担して賄っている状況ですが、親の貧富の格差が教育格差になって表れています。例えば、我が国においては、両親の年収が少ないと4年生大学への進学率は低下します。(表2)

【表2】両親の年収と大学進学率



社会には未来はありません。人への投資を増強することで格差の壁を打ち破り、全ての子どもが能力を発揮できる社会とすべきです。



「三つ子の魂、百まで」

人材育成は、高等教育・職業研修だけでなく、幼児教育もまた重要です。2000年にノーベル経済学賞を受賞したシカゴ大学のヘックマン(Heckman)教授は、幼児期に約1年間にわたる教育プログラムを受けた子どもを40年以上追跡した調査結果を踏まえて、幼児教育の重要性を指摘しています。すなわち、調査結果によれば、学習によるIQを高めたり学業成績改善などの認知能力向上の効果はしばらくすると消えるものの、根気強さ・注意深さ・意欲・自信といった非認知能力の向上の効果は、生涯にわたって継続することが明らかになりました。幼児期に非認知能力を習得することができれば、それを土台としてその後の人生全般で学習を効率的に行うことができますし、学習する能力が将来の

人生、日々精進

一方で、技術進歩と社会変動の激しい現代においては、知識は5年もすれば陳腐化するので、常に更新し続けなければなりません。したがって、学び続けるという習慣「日々是精進」も身に付けるべきです。すなわち、学校教育だけでなく、就職してからも職場での研修、さらには自己研鑽などを続ける必要があります。そうした動きを社会としてサポートしていくべきです。

そもそも人生における自己実現は、仕事を通じて行うところもありますが、趣味や地域活動、ボランティアなど様々な形態で行われています。したがって、学習の目的は、仕事

能力・技能を育てることになります。

私は、中流から下流への転落が増えつつある現代社会において、所得再配分による事後的な救済はある程度は必要ではあると考えます。しかし、それ以上に、親の貧困が子どもの貧困につながるという貧困の再生産に陥らないようにするために、また全ての子どもたちの潜在能力を最大限に引き出せるようにするために、幼少期の充実した教育が、公平性と効率性の観点から重要であると考えます。保育園の待機児童のみならず、教育内容の充実など我が国の幼児教育の底上げする政策を推進します。



のために限られず、幅広く行ってよく、そのことが人生を豊かにするものと考えます。

そして、社会は一人一人の人間が幸せな人生を送るためにあるはずで、教育は一人一人が幸せになるためのものです。幸せな個人がその幸せを社会で分かち合えれば、素晴らしい社会づくりに繋がります。

